

中国



1 農・畜産業の概況

中国は、日本の25.7倍に当たる9.6億ヘクタールの国土を有しており、耕地面積は、1億2172万ヘクタール（2013年）と国土の12.8%を占め、この割合は日本よりも高い。

中国の国内総生産（GDP）に占める農林水産業の割合は、全体の10.0%（2013年）と必ずしも高くないが、就業人口では全体の31.4%（2013年）を占め、依然として重要な産業となっている（表1）。

中国の農林水産業総生産額は、近年、経済成長および農産物価格の上昇により増加傾向にあり、2013年は、前年比8.4%増の9兆6995億元となった（表2）。

農林水産業の部門別生産額割合の推移を見ると、1990年には農林水産総生産額の6割以上を占めた農業（耕種農業）は減少傾向にあり、2005年以降は5割前後で推移している（図1）。一方、国民所得の向上による食肉消費拡大を受けて（表3、4）、1990年には2割強であった畜産業のシェアは、近年、3割前後で推移している。2013年の畜産業の生産額は、同4.6%増の2兆8435億5000万元となった（表2）。

表1 農林水産業の地位

（単位：億元、万人）

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 前年比 (増減率) |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--------------|
| GDP | 340,902.8 | 401,512.8 | 473,104.0 | 519,470.1 | 568,845.2 | 9.5% |
| うち農林水産業 | 35,226.0 | 40,533.6 | 47,486.2 | 52,373.6 | 56,957.0 | 8.8% |
| GDP比 | 10.3 | 10.1 | 10.0 | 10.1 | 10.0 | ▲0.1ポイント |
| 就業人口 | 75,828 | 76,105 | 76,420 | 76,704 | 76,977 | 0.4% |
| うち農林水産業 従事者数 | 28,890 | 27,931 | 26,594 | 25,773 | 24,171 | ▲3.1% |
| 就業人口比 | 38.1 | 36.7 | 34.8 | 33.6 | 31.4 | ▲2.2ポイント |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

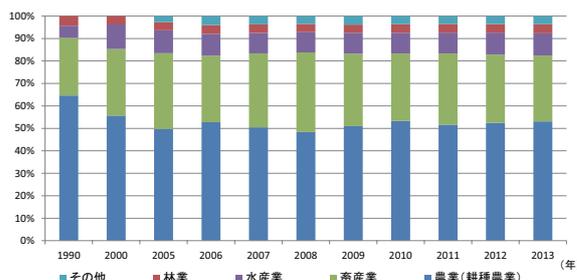
表2 農林水産業総生産額の推移

（単位：億元）

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 前年比 (増減率) |
|---------------|----------|----------|----------|----------|----------|--------------|
| 農林水産業 総生産額 | 60,361.0 | 69,319.8 | 81,303.9 | 89,453.0 | 96,995.3 | 8.4% |
| 農業(耕種農業) | 30,777.5 | 36,941.1 | 41,988.6 | 46,940.5 | 51,497.4 | 9.7% |
| 林業 | 2,193.0 | 2,595.5 | 3,120.7 | 3,447.1 | 3,902.4 | 13.2% |
| 畜産業 | 19,468.4 | 20,825.7 | 25,770.7 | 27,189.4 | 28,435.5 | 4.6% |
| 水産業 | 5,626.4 | 6,422.4 | 7,568.0 | 8,706.0 | 9,634.6 | 10.7% |
| その他 | 2,295.7 | 2,535.1 | 2,855.9 | 3,170.0 | 3,525.4 | 11.2% |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図1 部門別生産額割合の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：第二次全国農業センサス（2006年末時点）の結果に基づき、2006年のデータが大幅修正されたことから、2005年以前と2006年以後の数値は連続しない。

表3 1人当たり平均年間所得

（単位：元）

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 前年比 (増減率) |
|------|----------|----------|----------|----------|------------------------|--------------|
| 都市部 | 17,174.7 | 19,109.4 | 21,809.8 | 24,564.7 | 26,955.1 (539,102円) | 9.7% |
| 農村部 | 5,153.2 | 5,919.0 | 6,977.3 | 7,916.6 | 8,895.9 (177,918円) | 12.4% |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：1元=20円

表4 1人当たり年間食肉消費量

（単位：kg/人）

| 区分/年 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 前年比 (増減率) |
|------|------|-------|-------|-------|-------|--------------|
| 都市部 | 牛肉 | 2.22 | 2.38 | 2.53 | 2.77 | 2.54 ▲8.3% |
| | 豚肉 | 19.26 | 20.50 | 20.73 | 20.63 | 21.23 2.9% |
| | 鶏肉 | 8.00 | 10.47 | 10.21 | 10.59 | 10.75 1.5% |
| 農村部 | 牛肉 | 0.56 | 0.56 | 0.63 | 0.98 | 1.02 4.1% |
| | 豚肉 | 12.65 | 13.96 | 14.40 | 14.42 | 14.40 ▲0.1% |
| | 鶏肉 | 4.36 | 4.25 | 4.17 | 4.54 | 4.49 ▲1.1% |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：都市部は購入数量、農村部は消費数量

2 畜産の動向

(1) 養豚・豚肉産業

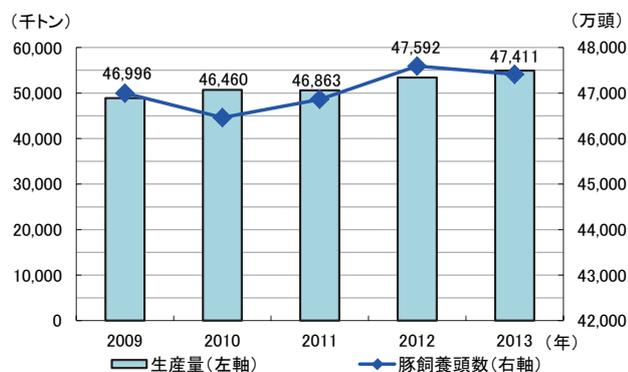
豚肉は、中国の食肉総生産量の約3分の2を占めており、伝統的な食文化を形成する重要な畜産物である。近年、生産規模の拡大や飼養技術の発展などによって生産性が向上している。

FAO（国際連合食糧農業機関）のデータによると、2013年の中国の豚肉生産量は世界第1位であり、第2位の米国の5倍強、全世界の生産量の約5割を占めている。

①養豚の飼養動向

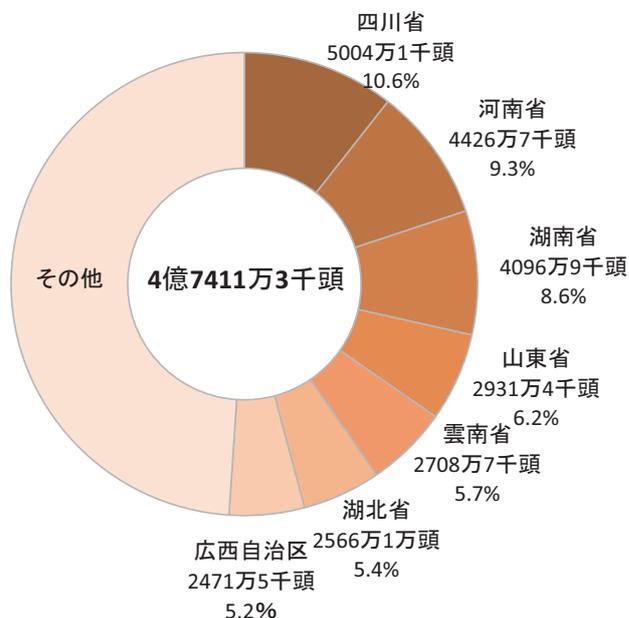
飼養頭数は2007年以降、国内価格が高水準で推移したことで、農家の増頭意欲が増したことや、政府による繁殖母豚導入およびワクチン接種経費に対する補助などを背景に、増加傾向となった。しかし、2009年から2010年にかけて、豚肉の供給過剰によって国内価格が下落したことで、繁殖母豚を中心に淘汰が進んだことから飼育頭数は減少に転じた。2011年から2013年は、需給が再びタイトとなり、国内価格の高騰などを背景に、肥育豚の導入頭数が増加傾向にあったことから、2013年は4億7411万頭となった（図2）。地域別に見ると、華北地域から華西地域、西南地域に位置する上位7省で飼育頭数全体の5割を超えている（図3-1）。また、出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が49頭以下の農場が全体の94.8%を占め、中国の養豚経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている（表5）。

図2 豚飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図3-1 地域別肉豚飼養割合（2013年）



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図3-2 地域別肉豚飼養頭数上位7省

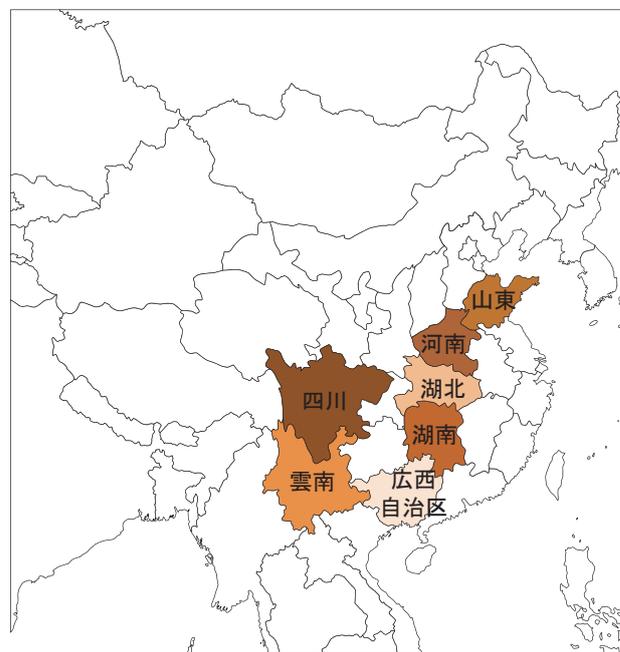


表5 肉豚の出荷規模別農場戸数 (2013年)

(単位：千戸)

| 区分/規模 | 全体 | 1～49頭 | 50～99頭 | 100～499頭 | 500～999頭 | 1,000～2,999頭 | 3,000～4,999頭 | 5,000～9,999頭 | 10,000頭以上 | 50,000頭以上 |
|-------|----------|----------|---------|----------|----------|--------------|--------------|--------------|-----------|-----------|
| 戸数 | 52,116.0 | 49,402.5 | 1,619.9 | 827.3 | 175.7 | 65.4 | 13.4 | 7.1 | 4.6 | 0.2 |
| 割合 | 100.0% | 94.8% | 3.1% | 1.6% | 0.3% | 0.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

資料：中国農業部「中国畜牧兽医年鉴」

② 豚肉の需給動向

豚肉生産は、国民所得の向上や人口増加に伴う需要拡大などを背景に増加傾向にあり、2013年の豚肉生産量は、5493万トン（前年比2.8%増）となった（表6）。地域別に見ると、主要養豚地域である四川省のほか、河南省など中央部の上位7省で、全体の5割を占めた。

2012年の豚肉消費量は、5545万6000（表6）トンであり、2013年の豚肉輸入量は、消費量の増加などから同5.5%増の77万トンとなった。背景としては、加工品向けを中心に、安価な輸入豚肉の需要が高まっていることが考えられる。主な輸入相手先国は、輸入量の半分を占める米国のほか、ドイツ、スペイン、デンマークなどとなっている。一方、豚肉輸出量は、同3.8%増の24万4000トンとなった。主な輸出相手先国は、輸出量の約8割を占める香港のほか、カザフスタン、マカオであった。

表6 豚肉需給の推移

(単位：千トン)

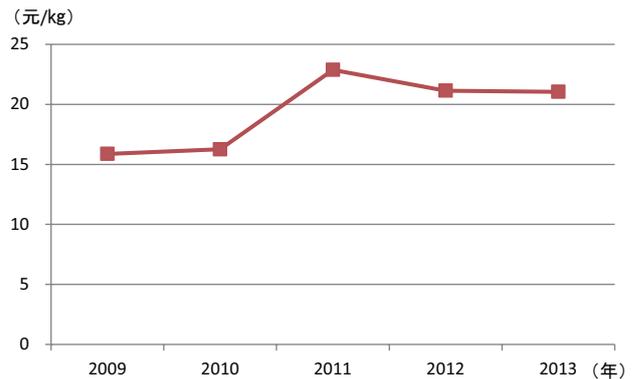
| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 生産量 | 48,908 | 50,712 | 50,604 | 53,427 | 54,930 |
| 輸入量 | 270 | 415 | 758 | 730 | 770 |
| 輸出量 | 230 | 278 | 244 | 235 | 244 |
| 消費量 | 48,948 | 50,849 | 51,118 | 53,922 | 55,456 |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」（生産量）およびUSDA/FAS「PSD Online」（輸入量、輸出量）

③ 豚肉の価格動向

豚肉卸売価格は、2010年までの供給過剰により低落していたが、2011年は、前半の出荷頭数の減少や飼料穀物価格の上昇による生産コストの増加などを背景に高騰し、同年9月には1キログラム当たり26.41元となった。その後は同20元の水準で推移しており、2013年の豚肉卸売価格は、同21.04元（421円）となった（図4）。

図4 豚肉卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」

注：枝肉の価格。

(2) 酪農・乳業

中国の牛乳・乳製品の消費は、国民所得の向上に伴う健康志向の高まりや食の多様化などを背景に拡大傾向にあり、乳用牛頭数や乳製品輸入量にもその影響が現れている。しかし、中国の酪農は、乳用牛の改良や飼料の確保、飼養管理技術の改善などの課題は多い。また、乳業も、2008年に起きた生乳のメラミン混入事件にみられるように、品質管理の徹底やコールドチェーンなど流通体制の整備などに課題があるのが実情である。

なお、FAOのデータによると、2013年の中国の生乳生産量（水牛を除く）は、米国、インドに次ぐ世界第3位であり、全世界に占める割合は5.6%となっている。

①乳用牛および生乳の生産動向

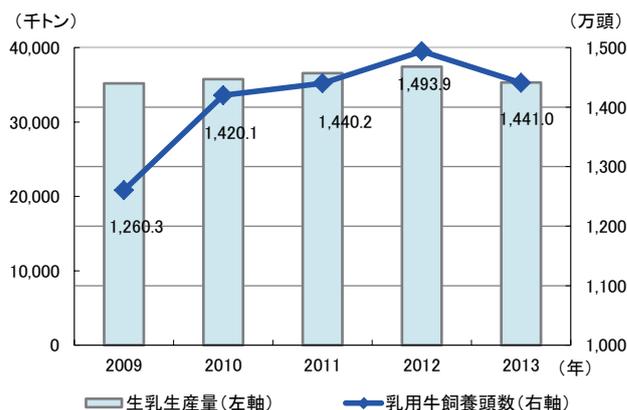
ア 飼養頭数

中国の乳用牛は、おおむね3分の2程度がホルスタイン種またはその交雑種であるといわれている。主要な品種は、雌の黄牛と雄のホルスタインとの交雑種に、さらにホルスタインの血統を累進交配して作出された中国黒白花牛（Chinese Black and White）と呼ばれるものである（中国では85年以降、ホルスタイン種の血統が87.5%以上のもの（＝ホルスタイン雄牛を三代以上交配したもの）を「中国ホルスタイン」と呼んでいる。）。

しかし、乳用牛の改良や飼養管理技術などが先進国に比べて遅れていることや、乳肉兼用種も飼養されていることなどから、乳用牛の生産性は低く、2013年の1頭当たり年間乳量は2451キログラム（中国乳業年鑑）であった。その後も海外から優良な雌牛の導入などが行われ、乳量の増加が図られている。

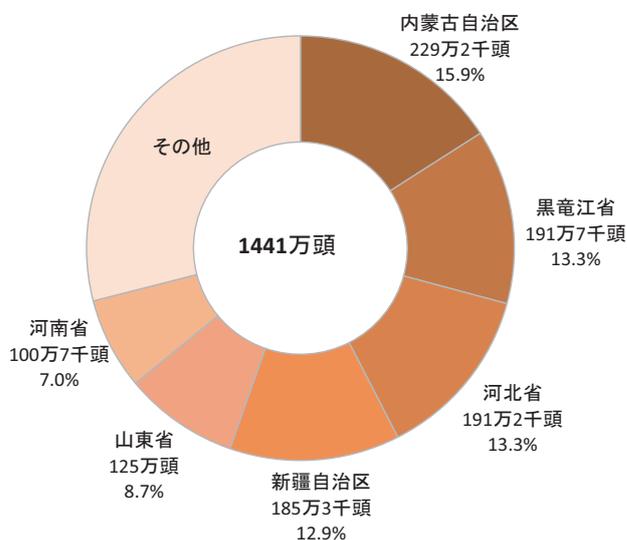
乳用牛の飼養頭数は、乳牛飼育コストの上昇による零細飼育農家の離農、一部の大規模飼育農家での経産牛の淘汰、更新などが重なったため、2013年は前年比3.5%減の1441万頭となった（図5）。地域別に見ると、華北・東北地方に位置する上位6省・自治区で飼養頭数全体の7割を占めている（図6-1）。また、飼養規模別農場戸数を見ると、飼養頭数9頭以下の農場が全体の9割を占め、中国の酪農経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている（表7）。

図5 乳用牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図6-1 地域別乳用牛飼養割合（2013年）



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図6-2 地域別乳牛飼養頭数上位6省



表7 乳用牛の飼養規模別農場戸数 (2013年)

(単位：千戸)

| 区分/規模 | 全体 | 1～4頭 | 5～9頭 | 10～19頭 | 20～49頭 | 50～99頭 | 100～199頭 | 200～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭以上 |
|-------|---------|---------|-------|--------|--------|--------|----------|----------|----------|----------|
| 戸数 | 1,890.6 | 1,425.6 | 272.9 | 113.9 | 45.7 | 17.9 | 7.0 | 3.9 | 2.4 | 1.4 |
| 割合 | 100.0% | 75.4% | 14.4% | 6.0% | 2.4% | 0.9% | 0.4% | 0.2% | 0.1% | 0.1% |

資料：中国農業部「中国畜牧兽医年鉴」

イ 生乳生産量

生乳生産量は、2012年までは増加傾向にあったが、2013年は前年比5.7%減の3531万4000トンと減少した(表8)。

表8 生乳需給の推移

(単位：千トン)

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 生産量 | 35,188 | 35,756 | 36,578 | 37,436 | 35,314 |
| 輸入量 | 13 | 16 | 41 | 94 | 185 |
| 輸出量 | 20 | 22 | 25 | 27 | 26 |
| 消費量 | 35,181 | 35,750 | 36,594 | 37,503 | 35,473 |

資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」(生産量)およびUSDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

ウ 地域別生乳生産動向

生乳は、主に東北部から華北、西北部などを中心に生産されている。主産地である華北・東北地方に位置する上位5省・自治区の2013年の生乳生産量は2331万4000トンと、全体の6割強を占めた。

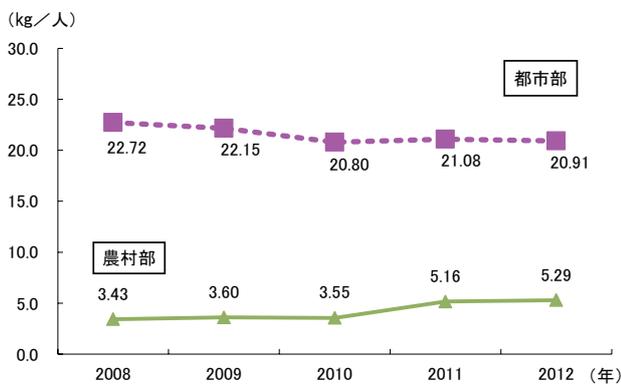
②牛乳・乳製品の需給動向

近年、1人当たり牛乳・乳製品年間消費量は(生乳ベース)、都市部で20キログラム台、農村部で5キログラム台で推移している(図7)。都市部では、健康志向の高まりや牛乳・乳製品の栄養知識の普及などを受けてヨーグルトの消費が増加しており、2008年のメラミン混入事件以降減少傾向にあった牛乳・乳製品の消費量が下げ止まったものと考えられている。一方、農村部で

は、牛乳・乳製品を消費する文化が徐々に浸透し始めており、消費量は増加傾向にある。しかし、依然として都市部と農村部の消費量には大きな格差があり、今後、農村部での消費拡大が、中国全体の牛乳・乳製品の消費量の増加をけん引していくとみられている。

注：上述の中国の都市部および農村部の1人当たり年間消費量は、一定数の家庭を抽出したアンケート調査により算出されている（全消費量を総人口で除して算出しているものではない）。

図7 1人当たり牛乳・乳製品の消費量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

注：都市部の数値は、牛乳・粉乳・ヨーグルトの数値をそれぞれ1：7：1のウェイトで生乳換算した合計値

乳製品のうち全粉乳（還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として使用される）の需給を見ると、2013年の生産量は、前年比3.5%増の120万トン、消費量は、同13.1%増の175万トンとそれぞれ増加し、輸入量は同52.5%増の61万9000トンとなった（表9）。

国内の乳業メーカー各社は、メラミン混入事件以後、国産原料を敬遠し、育児用粉乳や高級ヨーグルト製品の製造で輸入原料の使用を増やしてきた。このため、消費者の輸入ブランドに対する信頼や高級品志向によって、今後も輸入量は、増加基調での推移が予測される。主な輸入相手国は、FTA締結により関税削減の恩恵を受けたニュージーランドが9割強と圧倒的なシェアを占めている。

表9 全粉乳需給の推移

(単位：千トン)

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 生産量 | 977 | 1,030 | 1,100 | 1,160 | 1,200 |
| 輸入量 | 177 | 326 | 326 | 406 | 619 |
| 輸出量 | 10 | 3 | 9 | 9 | 3 |
| 消費量 | 1,154 | 1,383 | 1,441 | 1,547 | 1,750 |

資料：USDA / FAS「PSD Online」

国産生乳生産コストの上昇と消費者の国産品不信により、脱脂粉乳（主にアイスクリーム、ケーキおよび加工乳などの原料として使用される）の2013年の生産量は、前年比5.3%減の5万4000トンに減少した（表10）。これに対して、輸入品は、消費者の信頼と高い品質により需要が伸び、2013年の輸入量は、同39.9%増の23万5000トンとなり、消費量は、同28.4%増の28万9000トンと大きく増加した。主な輸入相手国は、ニュージーランドが6割、続いて米国が1割となっている。

表10 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン)

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|------|------|------|------|------|
| 生産量 | 54 | 55 | 56 | 57 | 54 |
| 輸入量 | 70 | 89 | 130 | 168 | 235 |
| 輸出量 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 消費量 | 124 | 144 | 186 | 225 | 289 |

資料：USDA / FAS「PSD Online」

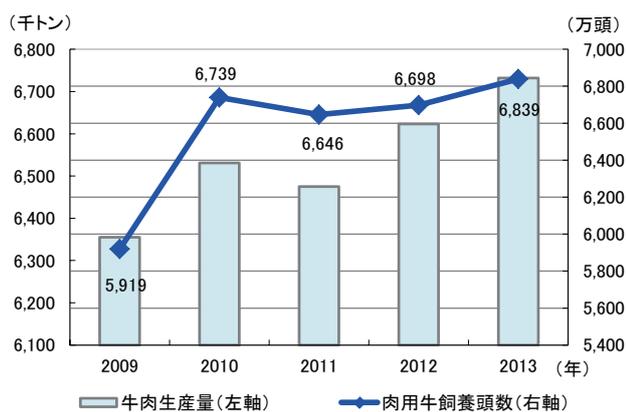
(3) 肉用牛・牛肉産業

中国の牛肉は、従来、廃用した役牛を食用に供するにすぎなかったが、政府が黄牛種（水牛およびヤクを除く在来種。役肉兼用型）の品種改良を進めることで肉質改善が進み、1990年代に入り、本格的な牛肉生産への取り組みが始められた。

近年、経済成長に伴う所得向上を背景に、外食産業が発展し、国民が外食などで牛肉を食する機会が増加している。国民1人当たり年間牛肉消費量（2012年）は、都市部で2.54キログラム、農村部で1.02キログラムと、世界的に見るといまだ低い水準にあるものの、今後も中国経済の成長が見込まれることなどから、引き続き増加傾向で推移していくものとみられる（表4）。2013年の肉用牛飼育頭数は、前年比2.1%増の6838万6000頭となった（図8）。地域別に見ると、西南・華西地方など内陸部に位置する上位7省・自治区で全体の5割強を占めている（図9-1）。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷頭数が9頭以下の農場が全体の95.4%を占めており（表11）、中国の肉用牛経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。

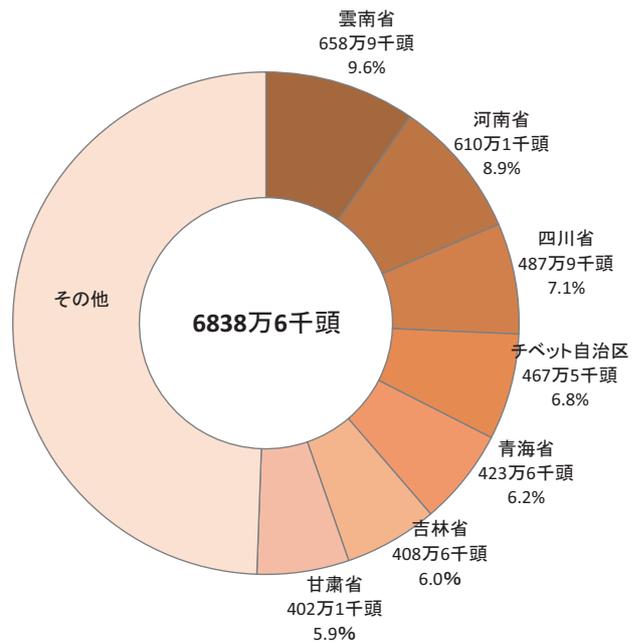
なお、FAOのデータによると、2013年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジルに次ぐ世界第3位（米国の約6割）であり、全世界の生産量の1割を占めている。

図8 肉用牛飼養頭数と牛肉生産量の推移



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図9-1 地域別肉用牛飼養割合（2013年）



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図9-2 地域別肉用牛飼養頭数上位7省



表 11 肉用牛の出荷規模別農場戸数 (2013年)

(単位：千戸)

| 区分/規模 | 全体 | 1～9頭 | 10～49頭 | 50～99頭 | 100～499頭 | 500～999頭 | 1,000頭以上 |
|-------|----------|----------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 戸数 | 12,337.3 | 11,771.8 | 440.5 | 93.3 | 27.1 | 3.5 | 1.1 |
| 割合 | 100.0% | 95.4% | 3.6% | 0.8% | 0.2% | 0.0% | 0.0% |

資料：中国農業部「中国畜牧兽医年鉴」

牛肉消費量は年々増加傾向にあり、2013年は前年比6.5%増の711万4000トンとなった。また、消費量の増加を反映して牛肉輸入量も増加しており、2013年は同4倍の41万2000トンとなった(表12)。主な輸入相手国は、豪州が5割、続いてウルグアイが2割強となっている。

牛肉卸売価格は、近年の国民所得向上に伴う需要の増加から上昇基調にあり、2013年は、1キログラム当たり51.71元となった(図10)。

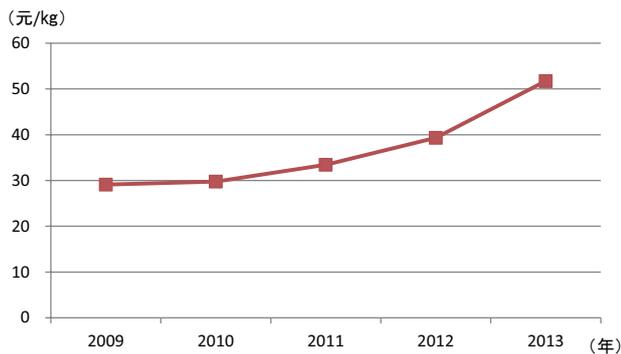
表 12 牛肉需給の推移

(単位：千トン)

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 生産量 | 6,355 | 6,531 | 6,475 | 6,623 | 6,732 |
| 輸入量 | 23 | 40 | 29 | 99 | 412 |
| 輸出量 | 38 | 51 | 55 | 42 | 30 |
| 消費量 | 6,340 | 6,520 | 6,449 | 6,680 | 7,114 |

資料：中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)およびUSDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

図 10 牛肉卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」
注：枝肉の価格。

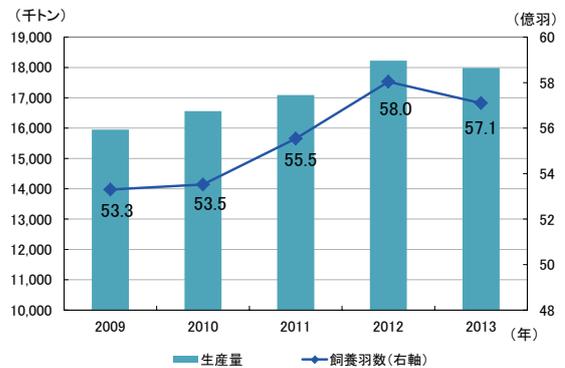
(4) 養鶏・鶏肉産業

中国の養鶏は、1970年代末の農政改革を契機として大きく発展し、鶏肉は、食肉の中で豚肉に次いで消費されている。最近では、中国人の嗜好に合う在来鶏(黄色種、いわゆる地鶏)やその特色を活かした在来鶏と輸入鶏との交配による品種改良鶏が生産の主流となり、消費者のニーズに合せた生産が進められている。このため、今後、さらなる生産・消費の増加が見込まれる。

家禽の飼養羽数は、2010年以降急速に増加したが、2013年は国内で発生した鳥インフルエンザなどの影響から、前年比1.6%減の57億1000万羽となった(図11)。地域別に見ると、河南省や山東省、河北省などの沿岸部に位置する上位7省・自治区で全体の5割強を占めている(図12-1)。出荷規模別農場戸数を見ると、年間出荷羽数が1万羽未満の農場が全体の99%以上であり(表13)、中国の養鶏経営は、依然、零細農場が主体の構造となっている。

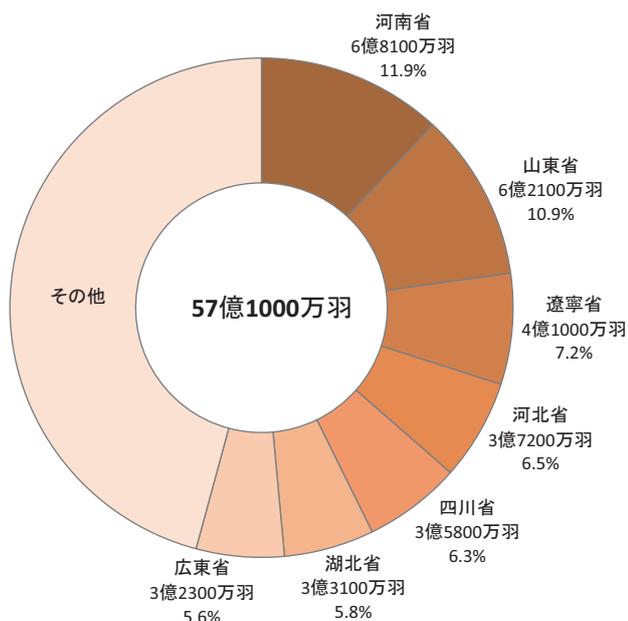
なお、FAOのデータによると、2012年の中国の鶏肉生産量は、米国に次いで世界第2位(米国の生産量の約8割)であり、全世界の生産量の1割強を占めている。

図 11 家禽飼養羽数と家禽肉生産量の推移



資料：中国国家統計局「中国統計年鑑」

図 12-1 地域別家禽飼養割合 (2013年)



資料：中国国家统计局「中国統計年鑑」

図 12-2 地域別家禽飼養羽数上位7省

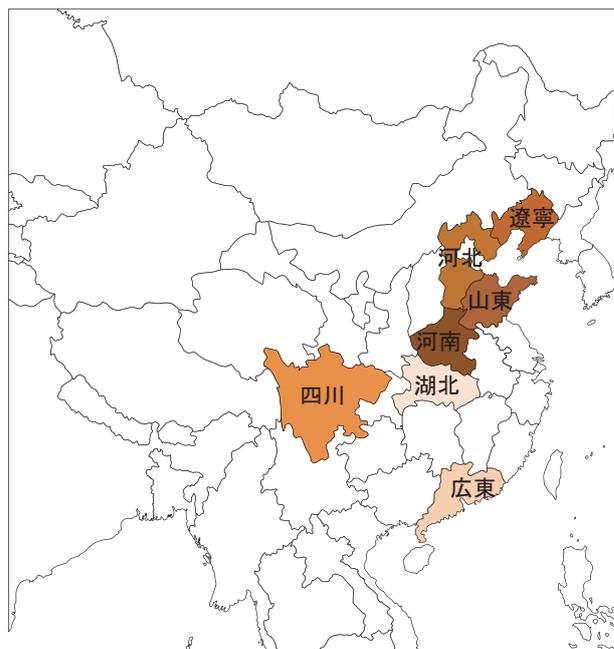


表 13 家禽 (肉用鶏) の出荷規模別農場戸数 (2013年)

(単位：千戸)

| 区分/規模 | 全体 | 1～1999羽 | 2000～9999羽 | 10,000～49,999羽 | 5万～99,999羽 | 10万～499,999羽 | 50万～999,999羽 | 100万羽以上 |
|-------|----------|----------|------------|----------------|------------|--------------|--------------|---------|
| 戸数 | 23,621.2 | 23,172.1 | 280.3 | 140.8 | 20.1 | 6.6 | 0.9 | 0.4 |
| 割合 | 100.0% | 98.1% | 1.2% | 0.6% | 0.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |

資料：中国農業部「中国畜牧獣医年鑑」

鶏肉輸出は、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病など家畜感染症の常在化や抗生物質の残留問題など、家畜衛生や飼養管理の問題に直面している。非加熱鶏肉については、2002年には、動物用医薬品の残留を理由としてEU向けの輸出が一時停止となり、2004年には、高病原性鳥インフルエンザの発生を理由として日本も輸入の一時停止措置を講じ、現在に至っている。その後、中国の鶏肉輸出は、鶏肉調製品が中心になり、2013年は前年比2.2%増の42万トンとなった(表14)。主な輸出相手国は日本、香港などである。

鶏肉卸売価格は、より安価なたんぱく源を求める消費層による需要増加によって上昇基調にあり、2013年は同0.8%増の14.26元となった(図13)。

表 14 鶏肉卸売需給の推移

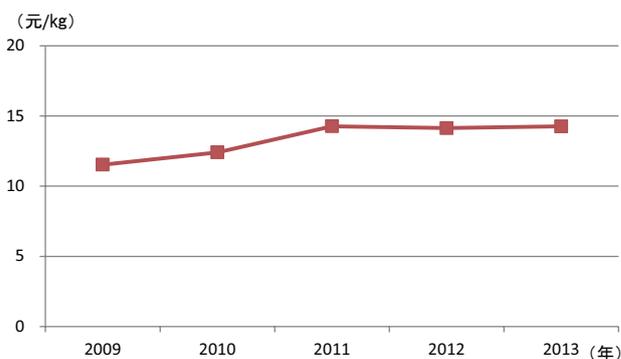
(単位：千トン)

| 区分/年 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 生産量 | 15,949 | 16,561 | 17,088 | 18,226 | 17,984 |
| 輸入量 | 401 | 286 | 238 | 254 | 244 |
| 輸出量 | 291 | 379 | 423 | 411 | 420 |
| 消費量 | 16,059 | 16,468 | 16,903 | 18,069 | 17,808 |

資料：中国農業部「中国農業年鑑」(生産量)およびUSDA/FAS「PSD Online」(輸入量、輸出量)

注：輸入量および輸出量には、鶏肉調製品を含む

図 13 鶏肉価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」